

説教余滴、妹の葬儀、2019年1月20日

お許しを戴いて、1月14・15日は、教会を空けることにしました。留守中に、軽井沢の牧師が来訪してくださった、と翌日知りました。ご長男は、上町教会の宮沢牧師です。

留守をした理由は、私の実妹の葬儀を司式するためでした。5歳年下、数年前からガンと戦っていました。昨年、甥の結婚式があり、もうだめかもしれない、と言いながら、そのときはお願いね、などと冗談っぽく話していました。そして秋になって、メールと電話で、「家族にも話して決めたから、ぜひやってほしいの。横須賀の教会で、お墓のことまですべて任せる。お兄ちゃんにキリスト教で」。解った、必ず君の願いどおりにするから、安心していいよ、と約束しました。11月、吉祥寺の病院の緩和病棟に訪ねました。12月、初めごろは、まだ元気がありました。下旬からは意識も低下し、26日には起き上がることも話すこともできません。そして1月6日、お別れに来てくださいと連絡を受け、参りました。

7日未明4時9分、静かに息を引き取りました。

火葬場が混雑しているため、1月15日に葬儀を行うことになりました。田浦の「花森」さんをお願いして、十字架のついた黒布をお借りしました。ありがたいことです。

これほど日程が緩やかだと、準備する側でも、考えて色々なことができます。火葬場を出る時、気付きました。そこには僧侶が棺頭に立ち、二人の男性が棺則に立っていました。二人だけで葬送する。いったいどのような事情があるのだろうか。それにしても寂しい。

私どもは、家族葬でしたが、60名ほどの出席。火葬場へは40名超。にぎやかなことでした。

『祝儀ご遠慮、不祝儀お構いなし』、若い日に教えられました。お祝い事は、招かれた人だけが参加する。悲しみの時には、普段行き来がなくても聞いたら、参加して、少しでもお慰めする。たとえ、喧嘩同然であってもこの機会にお詫びし、仲直りする気持ちで。